

総論： 血管(機能)を診ることの意義

橋口照人

Teruto Hashiguchi

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科血管代謝病態解析学

鹿児島大学病院検査部

Summary

血管(機能)を診ることの意義は、最も直接的に血栓症の発症を予測し、予防することにあると一般的には考えられている。しかしながら、血管の機能破綻は動脈硬化へのプロセスの機序以外にも、“過労死”に代表されるように日常的に存在することを理解すべきである。血管機能の破綻は血栓症の発症に代表されるが、発症の過程には側副血行路をはじめとした進化的賜物とも言える代償機構が働く。しかしながら、過労死に代表されるようなストレスによる血管機能低下に対する代償機構は脆弱であると考えられる。

Key words

過労死
血管機能
血栓症
動脈硬化

ストレス
側副血行路

はじめに

血管(機能)を診ることの意義は、最も直接的に血栓症の発症を予測し、予防することにあると一般的には考えられている。そのことが、QOLの維持においてきわめて重要であることは言うまでもない。血栓症とは生理的止血機構における生体システムが血管内において作動してしまう病的プロセスと考えることができる。したがって、血栓症発症に至る病的プロセスの理解は大切であり、実際に多くの研究が積み重ねられてきた。それらの研究の多くは動脈硬化から血栓症に至るプロセスの研究である。しかしながら、血管の機能破綻は動脈硬化へのプロセスの機序以外にも、“過労死”に代表されるように日常的に存在することを理解すべきである。

血管機能は恒常性の維持のために常に応答している

脳血管障害、心筋梗塞、静脈血栓などの虚血性疾患は、言うまでもなく血管の病気(血管病)である。血管の役割は全身の組織に血液を運ぶ導管としての役割